

施策番号 3-3-3	施策名 上下水道の整備	基本目標 快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり
		政策名 自然と調和した生活環境の整備と環境の保全
主管課 水道課	課長名 西川 一浩	内線 420
施策関係課	住民生活課	

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
上下水道等の整備により、ライフラインを確保し、快適な生活環境の維持に努めます。		上下水道等施設	施設を維持し、未普及地への拡大をすすめる				安全安心な水が利用できる
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	28年度	29年度	30年度	
① 水洗化率(下水道・集落排水・合併浄化槽)	決算統計	%	95.3	95.7	96.0	95.6	
② 水道普及率(上水道・簡易水道)	決算統計	%	85.5	83.9	83.6	90.9	
③ 水道未普及区域(区域内整備戸数)	決算統計	戸	85	85	85	51	
成果指標設定の考え方	①について～公共下水道は概ね横ばいであり、区域内人口及び水洗化人口、共に郊外地からの人口流入による個別排水区域内人口減少分を追加した。集落排水は現状維持とした。個別排水は毎年度1.2%の人口減と想定し、個別排水設置分年間5基に1基当たり3.4人分を追加した。しかし、人口減少に伴う既存施設の休止・廃止・世帯分離における一戸当たりの人口減少を考慮した。 ②平成23年度作成の「水道事業水資源対策基本計画」による将来予測による。平成30年度には区域拡大による給水人口増とした。 ③道営事業で取り進める営農用水の工事進捗による未普及区内整備戸数とした。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	822,543	897,805
人工数(業務量)	7,1519	6,5395

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	人口減少などにより水道普及率は低下しているが、区域拡大地域の工事は順調に進んでいる。郊外地における個別合併浄化槽の設置により水洗化は向上している。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	平成29年度は、7基の新設を実施し、平成30年度においても個別合併浄化槽の設置は予算化されている。上水道区域拡大地域の工事は、順調に進んでいる。
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	個別合併処理浄化槽新設事業 下水道建設事業 配水管整備事業 上水道(第6期)拡張事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・個別合併浄化槽は、世帯分離等住宅の新築に伴い要望は増加の傾向である。 ・下水道施設は、集落排水施設を含め、老朽化対策(改築・更新、長寿命化)及び耐震化対策等を進めている。 ・簡易水道施設は、河北地区において、老朽化・水源(水量)不足対策として道営事業による整備事業を平成26年度より着手している。 ・上水道施設整備は、一部無水源地域の解消に向け区域拡大地域の施設整備を進めている。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・上下水道施設は、生活基盤として欠かさない施設であり重要なライフラインであることから、今後においても現状施設の維持管理と適切な施設の改築更新・耐震化等を進めて行く必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・上下水道事業は、重要なライフラインであることから、老朽・耐震化対策等について、防災力の強化を図る面からも、更なる施設の安全対策の実施要望がある。 ・郊外地における下水道対策として個別合併浄化槽新設事業では、農業後継者の世帯分離や非農家居住による新規要望が増加している。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

●課題① 上下水道施設の整備強化 ・現在取り進めている様々な生活環境に係わる整備の他にも、上下水道では、老朽施設等の再整備及び未普及地域の解消対策を今後においても計画的に取り進める必要がある。 ・平成27年度に策定した「芽室町上下水道事業施設整備基本計画」に基づき事業の計画的・効率的な実行を図る必要がある。
●課題② 良好な生活環境の確保 ・個別合併浄化槽は、郊外地(農村部)における下水道施設であり、より多くの住民が良好な生活環境を確保するために必要な施設であり、「合併処理浄化槽基本計画」に基づき整備を推進する必要がある。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	下水道の更新、合併浄化槽ともに計画どおりに推進されており、施策として前進していると言える。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	合併浄化槽の更新が課題になると考えられることから、計画的に進めてもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価と同じく前進していると評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	台風災害の際、断水によって、改めて水が大切なものであると実感した。災害時の対策については、今後も推進して行ってほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				